

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～ 言語活動の充実を通して ～

I. 研究の内容

- 1 言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等を育む授業を創造する研究を進める。
 - 思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業の展開を図る。
 - 各教科の授業，特に単元の導入において，指導形態・指導方法・教材教具等を工夫する。
 - 思考力・判断力・表現力等を育むための授業として，授業実践を行い，成果と課題を検証する。
 - 授業実践を互いに参観し，アドバイスをすることで授業力の改善・向上を図る。
 - 講師を招いての授業研究を実施する。
- 2 確かな学力向上を目指し，基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣（家庭学習）確立する。
 - 生活・学習実態調査を実施し，生徒の家庭学習等の実態を把握する。
 - 定期テスト取り組み期間において，個々に学習計画を作成させ，計画と目標達成のための取り組みをはかる。
 - 生活ノートの1日の記録の記入内容を指導し，言語活動の充実を図るとともに，毎日の記入で学習習慣につながる習慣性を身につけられるように取り組む。
 - 学習効果を高める基盤となる学習習慣や生活習慣を見直し，挨拶，授業規律清掃活動，給食指導を展開し，学習の基盤となる心を育む。
 - H-QUを実施し，その結果を分析，検証することにより，学級づくりや授業づくりに生かしていく。

II. 成果と課題

1 成果

- 研究授業では，理科・体育・数学の授業で具体的な意見交換ができ，それと共に共通理解が深まった。また，研究授業だけでなく，個人の授業においても言語活動を意識した実践を行うことができた。優れた授業実践をもとにモデルをつくりたい。

- 家庭学習の取り組みでは、宿題以外に問題集や各教科からの課題を出して、家庭学習ゼロの日をなくす活動をするのができた。また、1・2年生が実施しているステップアップテスト（小テスト）に向けた勉強で家庭学習を促すことができた。ただ単に課題に取り組むというだけでなく、試験をクリアするために努力する姿勢を身につけさせる効果があると考えられる。
- 生活・学習実態調査では、生徒の家庭生活を知るのに有効なので今後も続けたい。（携帯、スマホの使用状況など）また、今後は生活習慣の改善に向けて、保護者との連携に活用していきたい。
- H-Q Uでは、適応状況の把握ができ、結果を分析し共有することで、一人一人のサポートがしっかりできた。ぜひ来年度も継続していきたい。
- 生活ノートの指導では、生徒がなかなか口では言えない相談を聞くことができ、生徒理解や励ましに効果的であった。毎日提出させながら生徒理解に努めたい。また、漢字や字の丁寧さなども指導できた。
- 生徒は計画したように勉強しようと努め、学習時間が増えてきている。

2 課題

- 授業研究では、教科・領域によって事情は違うと思うが、教員によって意識の温度差があるように感じた。「これだけは共通してやる」というものを決めておくとよかった。
- 家庭学習の取り組みは、生徒の学力向上に向け改善していく必要がある。
- 生活・学習実態調査では、継続してアンケートをしているので、1年時→2年時→3年時の推移を生徒や保護者に還元できるとよい。また、十分に活用できなかった。
- 生活ノートの取り組みでは、文章量の少なさ、内容や話題の乏しさなどが見られた生徒に対して十分な指導がしきれなかった。
- テストの計画表では、計画を立てることにさらに指導を加えていきたい。また、生徒によっては実際の勉強時間よりも多く記入する生徒もいるおそれもあるので、家庭学習ノートをつくるなど、家庭学習の取り組みとリンクさせていけるといいと考える。他にも、2週間前に範囲表を出し、取り組み表も使い始めているが、生徒がなかなか本気にならないのが現状である。さらなる手立てを講じる必要性を感じる
- 研究を進める上で、特に担任に大きな負担がかからないように考えたい。
- 研究を深めるために、夏休み等に理論学習（講師を招いて）をしてもよかった。
- これからどんな取り組み、改善が必要かをじっくり検討する時間が必要だと考える。

III 成果物

理科指導案、数学指導案、体育科指導案、言語活動一人一実践、生活アンケート分析結果、H-Q U分析結果、家庭学習五教科課題、課題確認テスト、定期試験取組表

（研究主任 中村健太）